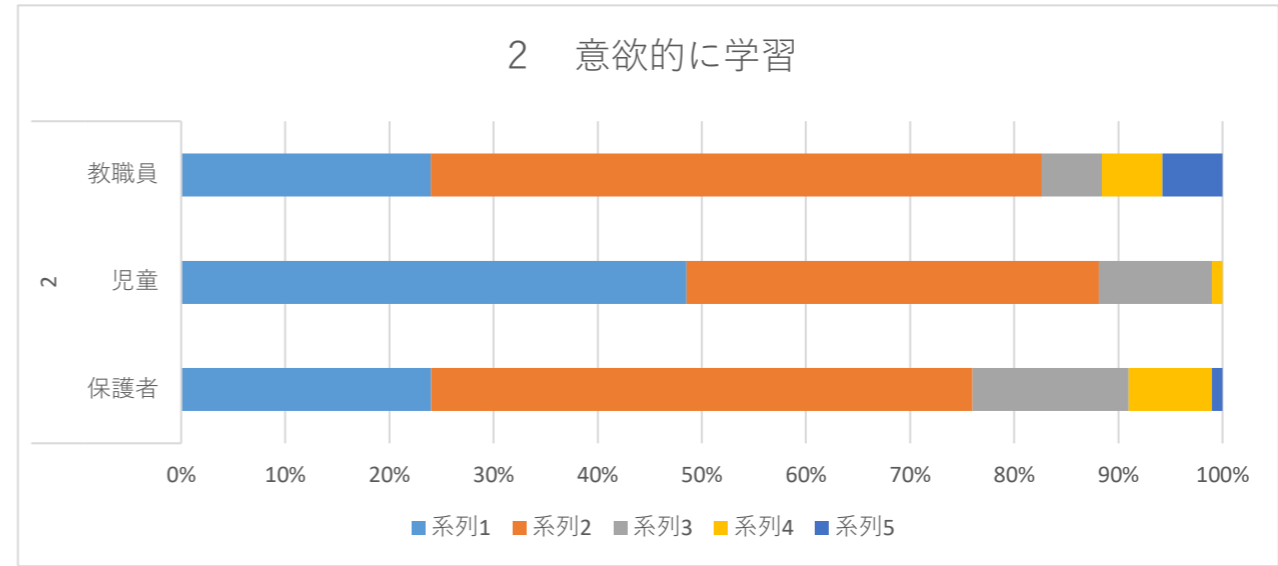
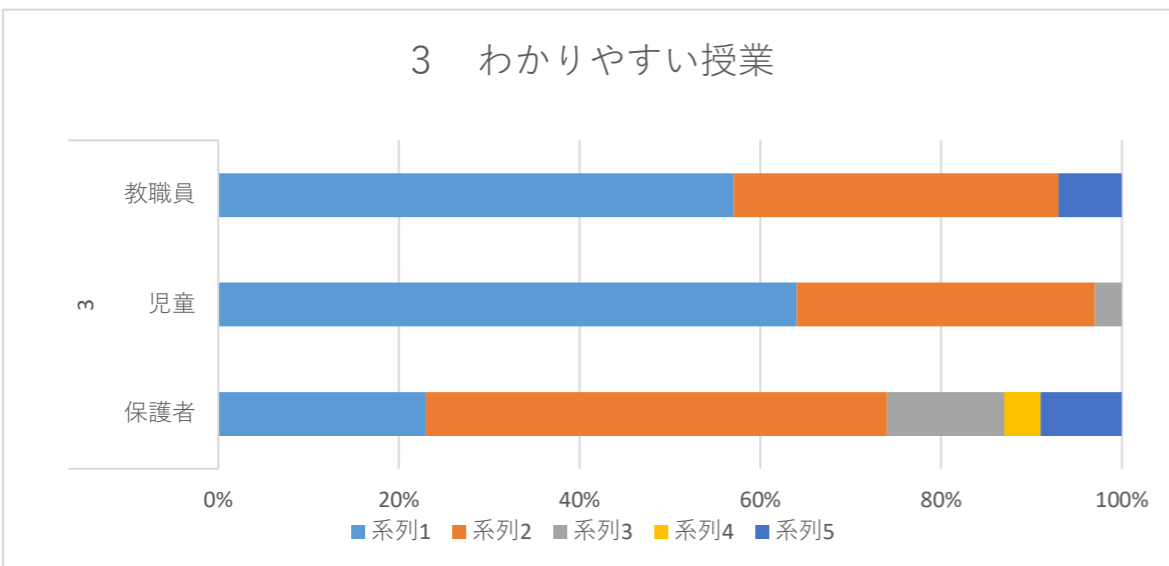


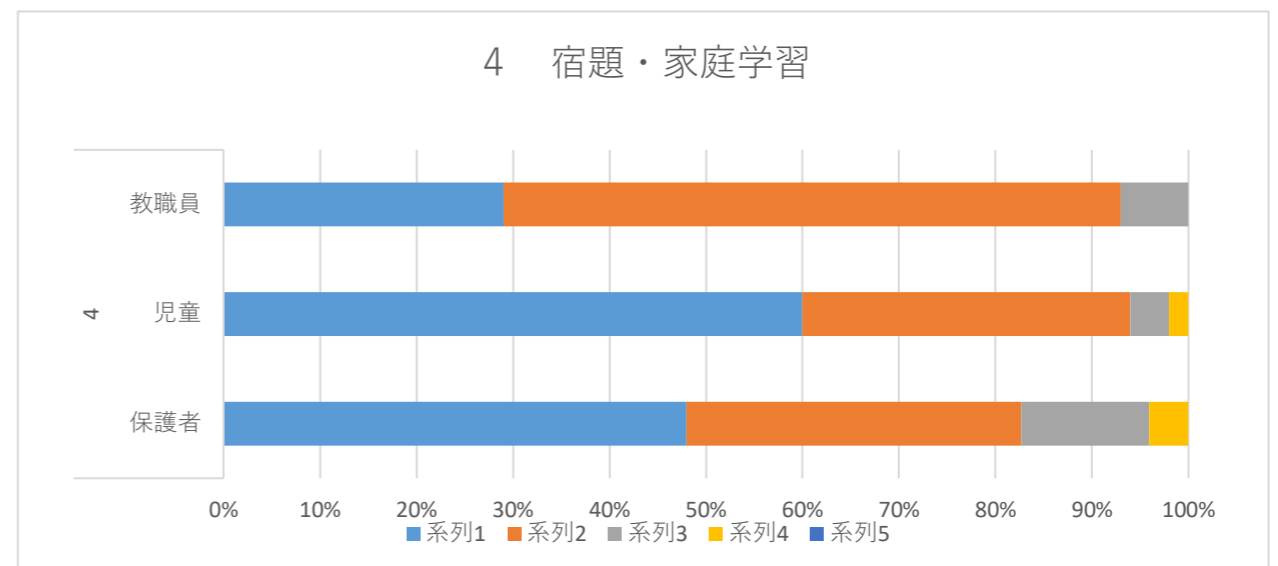
本年度も学校教育目標の下7つの重点目標（レインボープラン）を掲げ取り組み、学校だより、ホームページ等で説明をしてきた。コロナ禍で保護者に直接伝える場が少なかったが、肯定的評価が79%（+8%）となった。児童へは大森小学校の伝統や良いところについてふれてきており、児童の肯定的評価は95%（-2%）となった。今後もさらなる周知を図っていききたい。



児童の意欲を高めるためには基礎基本の学力の定着が不可欠である。朝15分間のチャレンジタイムを設け、計算問題や漢字の書き取りに取り組んでいる。また、市の計算・漢字検定にも積極的に参加することで児童の意欲化を図っている。児童の肯定的評価89%（-5%）だが、保護者は76%（-1%）。タブレット端末等のICT機器の活用や体験的な学習（実験・具体物操作・地域学習等）を取り入れながら学習の意欲化を図っていききたい。

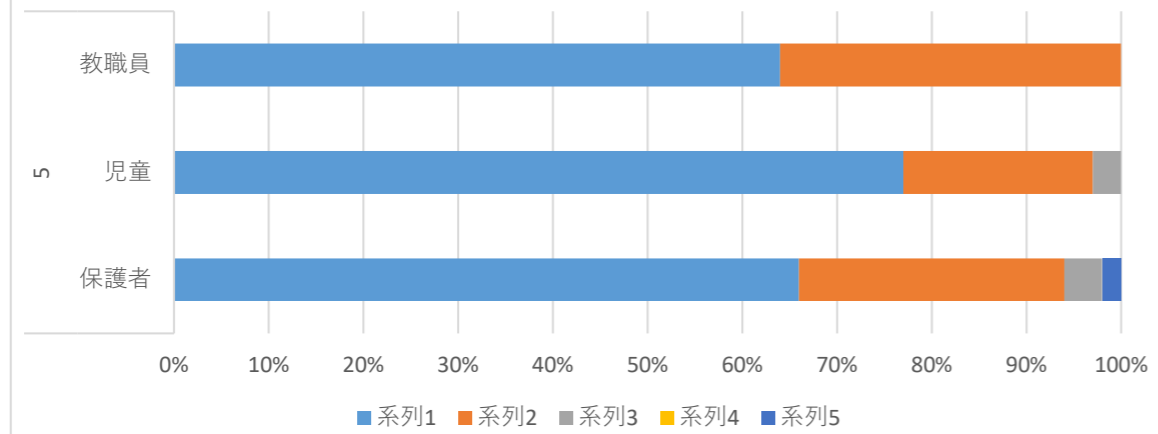


「わかった」「できた」と実感できる授業を目指し、ユニバーサルデザインの視点を生かし、各教科に取り組んできた。保護者の肯定的評価74%（+2%）だが、児童は97%（+2%）と高い評価だった。タブレットを有効活用した授業や体験的な活動を取り入れながら「わかる授業」に今後も取り組んでいきたい。



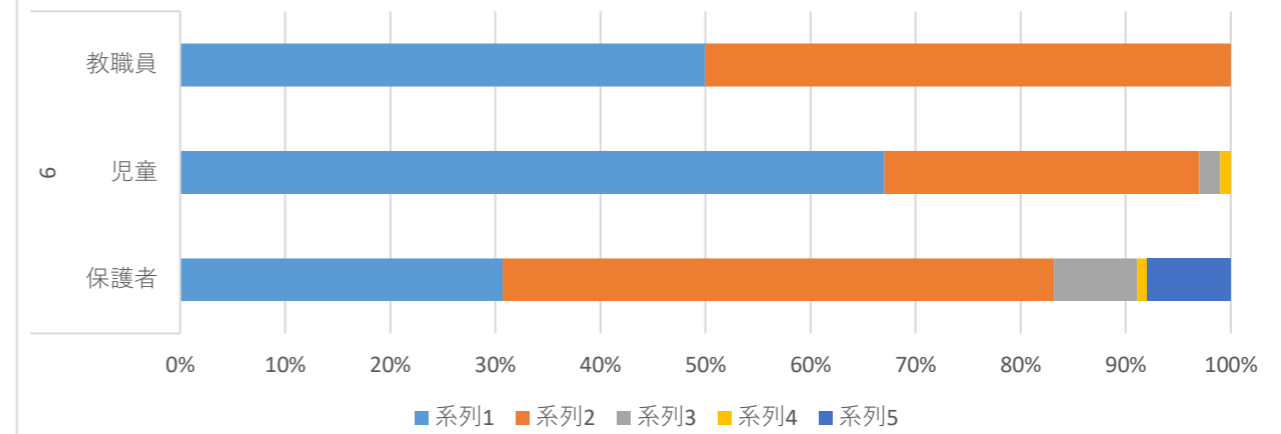
保護者の肯定的評価81%（-4%）。宿題については、どの学年も計画的に出しており、学年×10分間は机に向かうよう保護者会や学校だよりで呼びかけている。児童の肯定的評価は94%（+3%）となっており、保護者の協力も得ながら少しずつ定着してきていると思われるが、個人差が大きいところがある。タブレット活用を家庭学習でも位置づけたい。

5 友達を大切にする



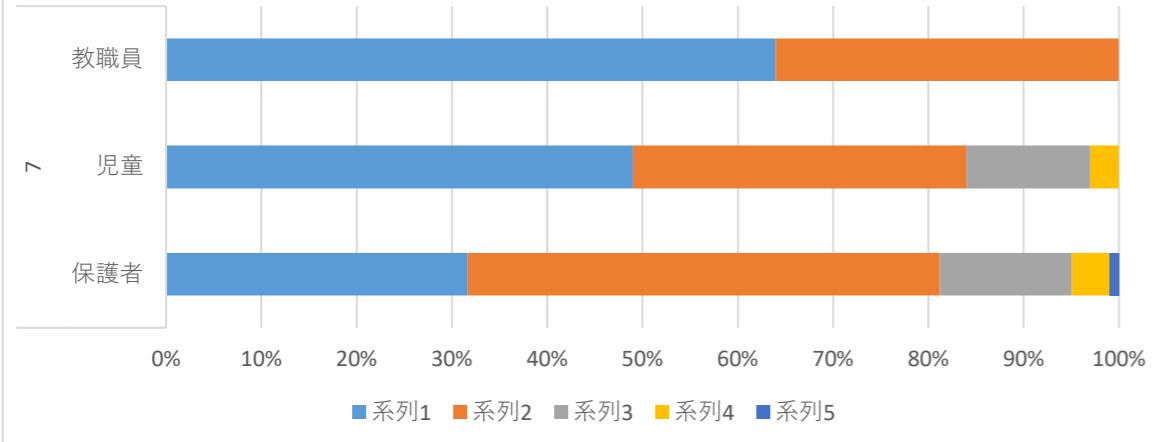
保護者の肯定的評価94%（-1%）。児童の肯定的評価97%（+1%）。道徳教育の充実、また人権週間に標語を作成し集会で紹介することで、友達を大切にする気持ちが高まってきている。また、たてわり活動を通して異学年児童へ優しく接する場面が多く見られた。

6 心の教育



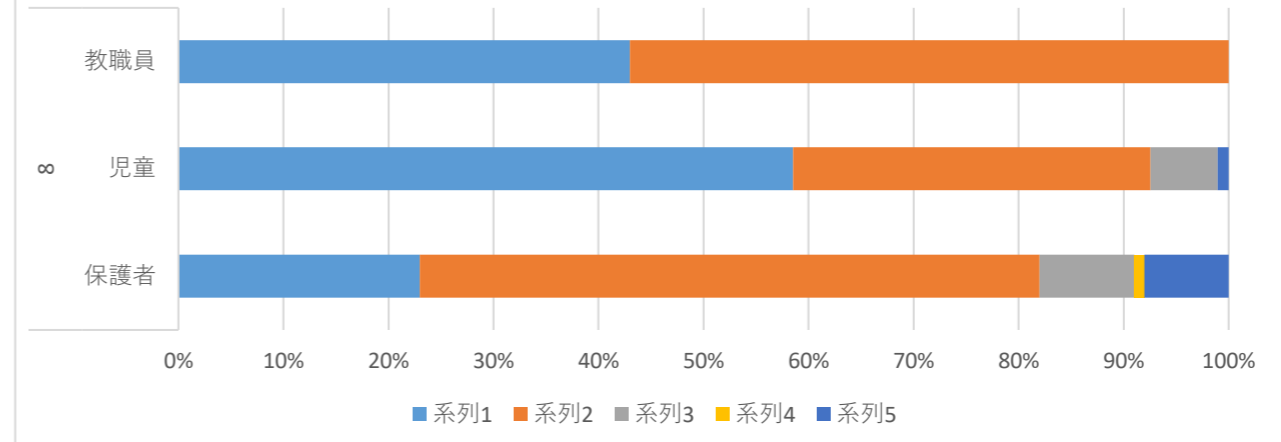
保護者の肯定的評価84%（+2%）、児童の肯定的評価97%（+1%）であった。今年度もみどり荘訪問、高齢者との交流等は中止となったが、自然体験活動やニンチショウサポーター養成講座、人権教室等を再び開催し、豊かな心の育成に努めた。今年度までの福祉活動の研究を活かして、来年度以降も充実した活動を継続していく。

7 健康・生活習慣

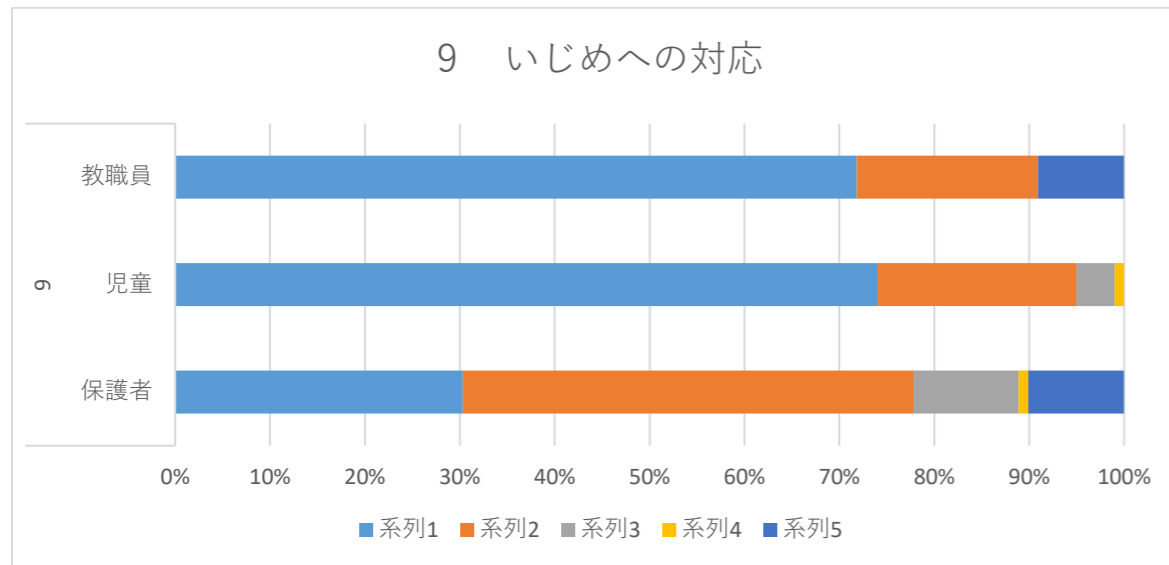


保護者の肯定的評価82%（+2%）、児童の肯定的評価84%（-5%）。運動や外遊びに制限がかかった中で、持久走練習やなわとび検定、もりもりタイム等で体力づくりに励んだ。また養護教諭による性教育、歯科検診を通してのブラッシング指導などを行った。基本的な生活習慣定着に向け、家庭との連携を図っていきたい。

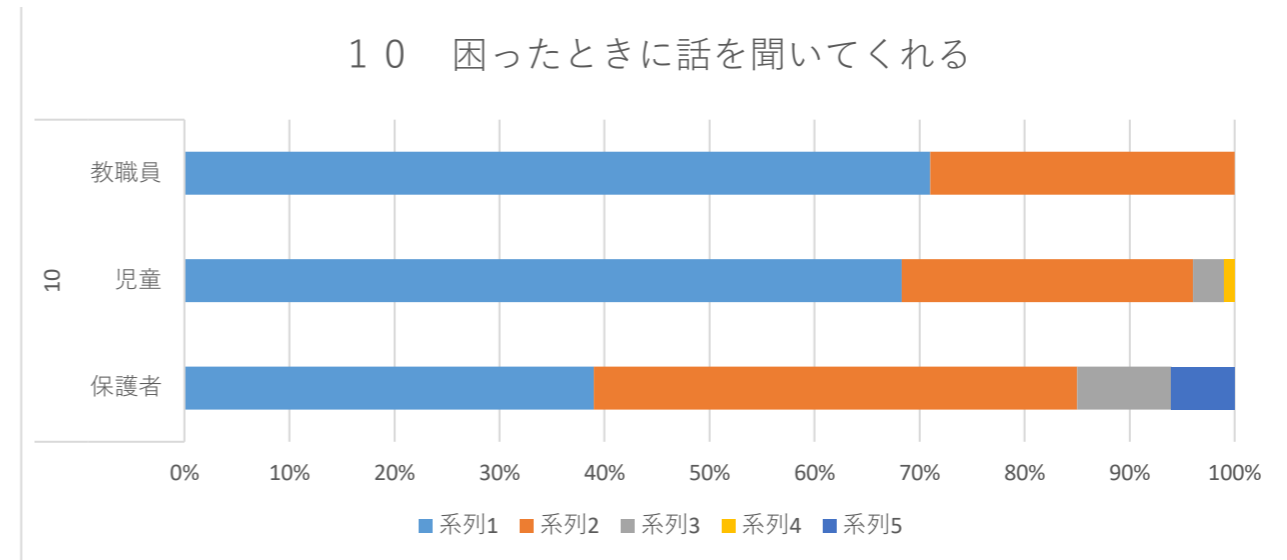
8 一人一人を大切にした指導



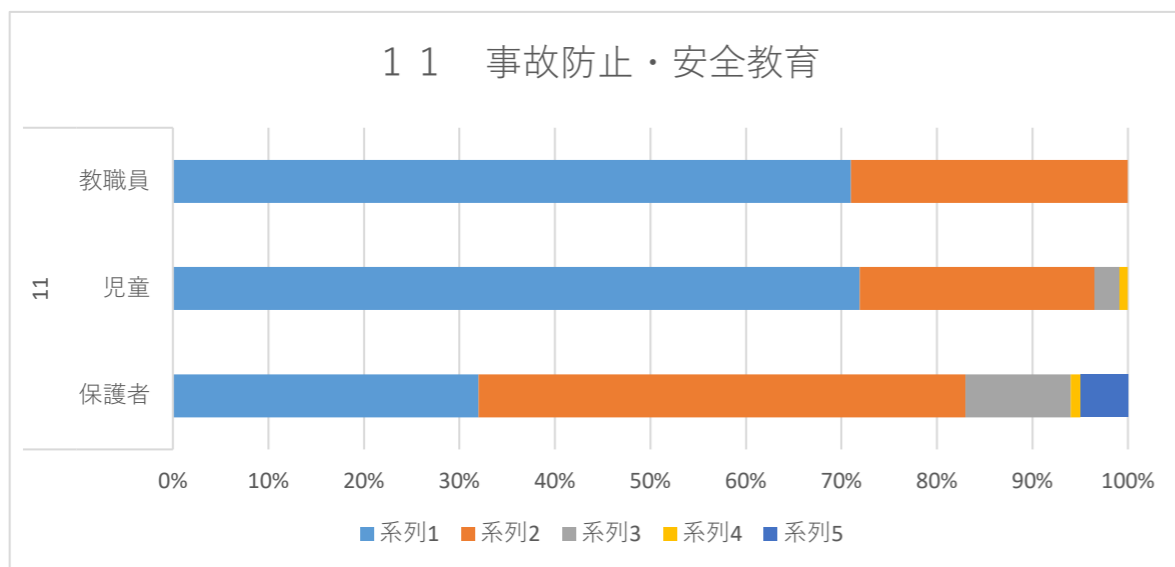
保護者の肯定的評価82%（+7%）、児童の肯定的評価87%（-5%）。担任だけでなく、全職員で子どもたちの学習・生活指導にあっている。必要に応じて連絡帳や電話等で児童の様子を伝えており、保護者との連携を意識している。今後も児童の実態の共通理解を図るために、個別面談、学級懇談会等を実施し、個に応じた指導に努めていく。



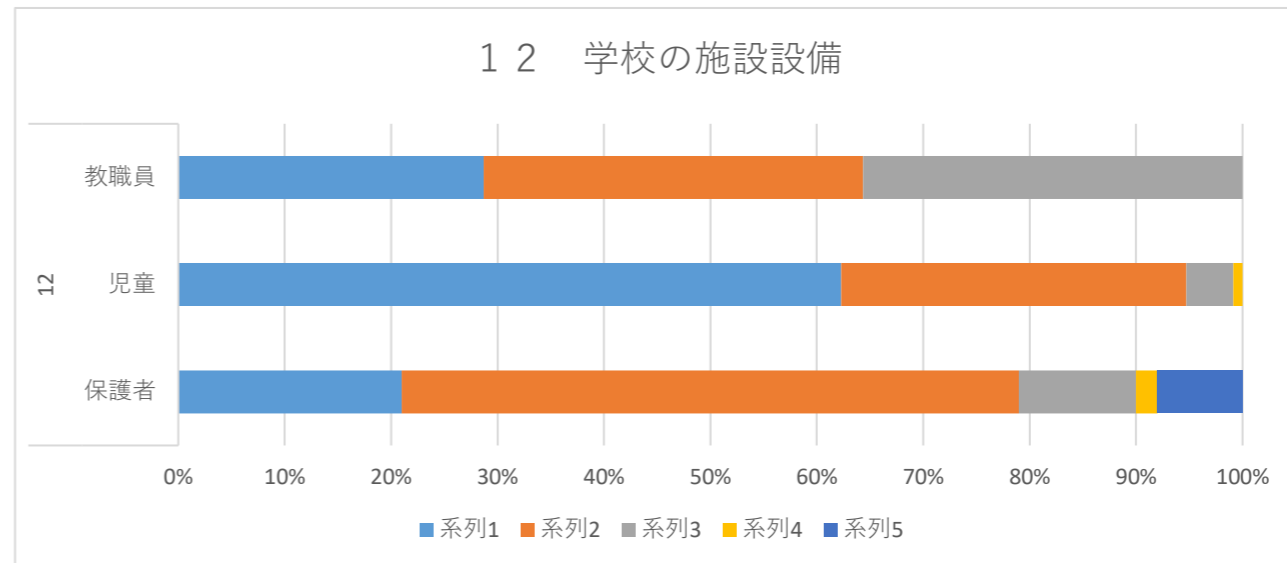
「あのね箱」やいじめアンケート調査を年6回実施したうえで、教育相談を実施し、いじめの早期発見・対応に努めている。保護者の肯定的評価77% (+4%)。児童は95% (+1%) で比較的対応してもらっていると感じている。今後も職員会議や生徒指導会議で情報の共有を図り、関係機関とも連携を図りながらいじめへの対応をしていきたい。



保護者の肯定的評価は85% (+1%)、児童の肯定的評価は97% (+4%) で比較的話を聞いてもらっていると感じている。友達とのトラブル等、学習や生活全般に渡って、学級担任は職員間で情報を共有しながら児童の対応に当たっている。

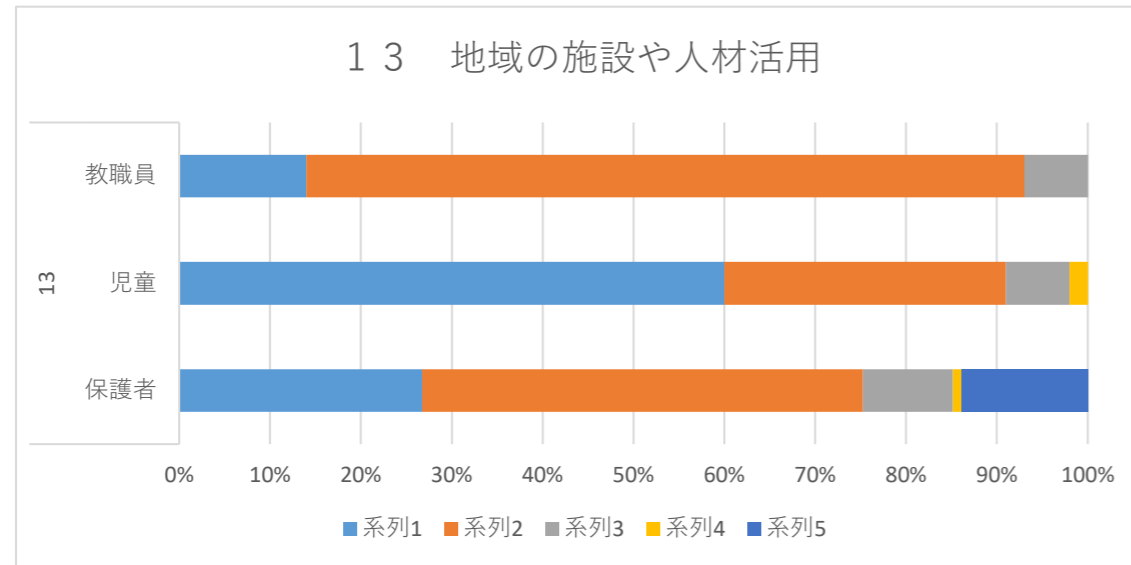


保護者の肯定的評価83% (+2%)。児童の肯定的評価97% (+2%) と安全に対する意識が高くなってきている。避難訓練(地震、火災等)、スポット避難訓練10回を実施し自分の命は自分で守るを合言葉に取り組んでいる。交通安全教室、通学路の点検、校内安全点検(毎月10日)を実施し、事故防止に努めている。



保護者の肯定的評価79% (+7%)、児童の肯定的評価94% (+3%)。教室棟が古いままではあり、児童が日常的に使用するロッカーや教室の棚等、不便に感じる場所があるが、教育委員会と連携しながら施設や環境整備に努めている。

13 地域の施設や人材活用



保護者の肯定的評価76% (+5%)、児童の肯定的評価91% (+12%)。コロナ禍ではあったが、市内巡り・町探検・校外学習等、校外での活動を実施することができ、児童も充実感を味わえた。また、一部の読み聞かせボランティア、図書ボランティア、安全ボランティアなど、保護者・地域の協力を得て、昨年度より学校・児童との直接的なつながりが強まった結果が評価にも表れているのかもしれない。

【まとめ】

①教育方針や教育目標を理解している	【保】 79% (+8)	【児】 95% (-2)
②意欲的に学習している	【保】 76% (-1)	【児】 89% (-5)
③授業がわかりやすい	【保】 74% (+2)	【児】 97% (+2)
④宿題や家庭学習に取り組んでいる	【保】 81% (-4)	【児】 94% (+3)
⑤友だちを大切にしている	【保】 94% (-1)	【児】 97% (+1)
⑥心の教育に努めている	【保】 84% (+2)	【児】 97% (+1)
⑦健康に気をつけて生活している	【保】 82% (+2)	【児】 84% (-5)
⑧一人一人を大切にした指導をしている	【保】 82% (+7)	【児】 87% (-5)
⑨いじめにきちんと対応している	【保】 77% (+4)	【児】 95% (+1)
⑩困ったときに話を聞いてくれる	【保】 85% (+1)	【児】 97% (+4)
⑪事故防止や安全教育に努めている	【保】 83% (+2)	【児】 97% (+2)
⑫学校の施設設備は整っている	【保】 79% (+7)	【児】 94% (+3)
⑬地域の施設や人材を活用している	【保】 76% (+5)	【児】 91% (+12)

コロナ禍ではあるが、昨年度より保護者・地域の方に来校してもらう機会を設けてきたので、学校や児童の様子に加え、学校の方針も伝えることができた。また、いじめ対応、わかりやすい授業づくりに向けて、さらなる改善に努めていく。